

中学校 社会科 部会

部会長 香春町立香春中学校 校長 三賀山 宏
研究員 川崎町立池尻中学校 講師 木村 誠治
実践者 香春町立勾金中学校 教諭 大鶴 裕司

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科教科指導の工夫

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

学習指導要領での社会科の目標は、「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。その目標実現のために、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることが求められている。現代社会が、情報化や国際化により急激に変化し多様化している中で、これからの社会を担っていく子どもたちには、社会的事象を単なる知識としてとらえるだけにとどまらず、知識を活用し、自分の考えを持つ力、またそれらをまとめ表現する力が必要である。以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

田川地区の子どもたちを取り巻く教育環境は必ずしも恵まれているとは言えず、学力においては学校間格差が大きくなりつつあり、いわゆる二極化も進んでいる。そこで、基礎基本を身につけさせると同時に、思考力・判断力・表現力をバランスよく、効率的に高めていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

「思考力」とは、ある社会的事象がその他の様々な社会的事象とどのようにつながっているのかを推察し、追求する力であると考え。

「判断力」とは、社会的事象を様々な視点から見つめ、その社会的事象の価値に対する自分の考えを持つ力であると考え。

また、社会的事象に対する価値判断を行うためには、様々な思考活動で社会的事象を把握することが必要不可欠であるため、「思考力」と「判断力」は相互に作用しあうことで高まっていくと考える。

さらに、「表現力」とは、社会的事象に対して、思考・判断した結果を、文章等でまとめ、伝える力であると考え。

4 研究の目標

資料から読み取ったことをもとに自分の考えを記述する活動と、他者との意見交流を行う活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

5 研究仮説

学習過程において、次のような手立てをとれば、思考力・判断力・表現力の向上につながるであろう。

- 資料をもとに、自分の考えをまとめ、記述する活動に取り組ませる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組ませる。

6 研究の計画

(1) 単元 「2節 ヨーロッパ州」

(2) 指導観

- 本単元「ヨーロッパ州」は、学習指導要領の〔地理的分野〕の2 内容(1)「世界の様々な地域」ウ(イ)「ヨーロッパ」に該当する部分である。世界の諸地域では、世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追求を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることができる。ヨーロッパ州は、多様な言語や宗教、生活習慣の違いから多くの民族に分かれ、せまい地域に多くの国が集まっている。文化や考え方の違いから紛争をくり返し、二度の世界大戦の戦場となって大きな被害を受け、ヨーロッパ州の国々の国力は低下した。そのため、ヨーロッパ州の国々は、戦争を避けアメリカなどの大国に対抗するために、協力して結びつきを強め、EU(ヨーロッパ連合)を結成し、国際的な競争力を回復させてきた。本単元は、ヨーロッパの国々から結びつきを意識させ、ヨーロッパ州の自然環境や文化、EU、産業について学ぶことを通して、地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的特色や地域の課題をとらえさせる上で大変意義がある。
- 本学級の生徒は、男子14名、女子13名、計27名である。授業中は発言や発表の積極性に偏りはあるが行えており、ワークシートへの書き込みなどはほぼ全ての生徒ができている。しかし、積極的に学ぼうとする意欲をもった生徒は一部である。事前にアンケート調査(22名・7月20日実施)を行った結果が下記の通りである。

1 社会は好きですか。嫌いですか。

| | |
|---------------|--------------|
| 好き・どちらかといえば好き | 嫌いどちらかといえば嫌い |
| 18 | 9 |

2 地理と歴史、どちらが好きですか。

| | |
|---------------|---------------|
| 地理・どちらかといえば地理 | 歴史・どちらかといえば歴史 |
| 3 | 24 |

「社会科は好きですか。嫌いですか。」という質問に対しては、「好き・どちらかといえば好きが18名、嫌い・どちらかといえば嫌いが9名」で社会科の学習に興味・関心を持っている生徒は多い。ただ、「地理と歴史、どちらが好きですか。」という質問に対しては、「地理が好き」という生徒が3名で地理の学習に苦手意識をもっており、興味・関心が低いことが分かる。

「社会科で、資料などから読み取って考えることは好きですか。」は「好き・12名、嫌い・15名」、「社会科で、資料などから読み取り考察し、文章でまとめることは好きですか。」は「好き・8名、嫌い・19名」となり、資料の読み取りや読み取った情報を文章で表現する活動に苦手意識を持っている。

- そのことから、本単元では地理的分野の学習に興味・関心が持てるように、地図帳を活用し生徒が自ら調べる活動など、作業的な学習を取り入れることで意欲を高めていきたい。また、写真・地図や統計資料を多く提示し、読み取りや考察をともにすることで、読み取り方や考察の仕方を身につけさせていきたい。読み取りが苦手な生徒に対しては机間巡視などを通じて、個別に支援を行う。また、課題を提示しその課題について生徒に自由に考えさせ、意見交流をさせる学び合い活動を取り入れることで、他人の意見を聞き自己の考えと比較させ、相違点を考えさせることで内容が深まるように努めていきたい。さらに、学び合い活動を通して学習の意欲を高め、読み取りや考察のとりかかりとなるようにし、最終的には全体で確認を行い、内容をさらに深めるようにしていきたい。

(3) 単元目標

- 日本との比較をまじえながら、ヨーロッパの自然環境や人々の生活・文化に関心を持ち、地域的特色を意欲的に追求しようとする。〔関心・意欲・態度〕
- ヨーロッパ州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で説明できる。〔思考・判断・表現〕
- 地図や統計資料などから、ヨーロッパ州の自然や産業の特色、地域どうしの結びつきなどを読み取ることができる。〔技能〕
- 文化の共通性と歴史的背景に着目し、EU統合による人々の生活の変化と課題について理解し、その知識を身につけている。〔知識・理解〕

(4) 単元指導計画

| 時数 | 学習活動内容 | 評価規準 | | | | 評価方法 |
|----|------------------|--|---|--|--|----------------|
| | | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 | |
| 1 | ヨーロッパ州の自然環境 | 意欲的に地図帳を使って、自然環境について調べている。 | 「北大西洋海流」「偏西風」の語句を使って、気温が高い理由を適切に表現できる。 | | | 様相観察 ワークシート |
| 1 | ヨーロッパ文化の共通性と多様性 | | | 写真や分布図を活用して、三つに分けられる文化の特色を適切に読み取ることができる。 | ヨーロッパ州の文化の特色をゲルマン系、ラテン系、スラブ系に整理し、その知識を身につけている。 | ワークシート 小テスト |
| 1 | ヨーロッパ統合と人々の生活の変化 | | EU統合の理由や人々の生活の変化について考察し、その結果を適切に表現している。 | | EU統合の背景や加盟国の変化について理解し、その知識を身につけている。 | ワークシート 小テスト |
| 1 | ヨーロッパの農業の今 | ヨーロッパ州の農業の地域的特色とEU統合による変化について関心を持ち、意欲的に追求しようとしている。 | | | 混合農業、酪農、地中海式農業の特色について理解し、その知識を身につけている。 | 様相観察 ワークシート |

| | | | | | | |
|---|-----------------|--|-------------------------------------|--|--|----------------|
| 1 | 国境をこえて結びつくEUの工業 | | EU統合による工業の変化と課題について、多面的・多角的に考察している。 | さまざまな資料を活用して、ヨーロッパ州の工業の特色を適切に読み取ることができる。 | | ワークシート 小テスト |
|---|-----------------|--|-------------------------------------|--|--|----------------|

7 授業の実際

(1) 日時 平成28年10月17日月曜日 第5校時 1年2組教室において

(2) 本時の指導観

生徒は、前時まででアジア州の自然環境、産業や文化について学習している。本時はヨーロッパ州の導入となるため、自然環境を理解させ、その中で緯度が高い割に気温が高い理由を考えさせていきたい。そのための手立てとして、まず導入では札幌とニースの写真と雨温図を使い、ニースの方が暖かいことから「問いづくり」を行う。次に展開では、地図帳を活用し、自然環境について調べさせ、気候に影響をあたえるものについて考えさせ「思考づくり」を行い、海流や風を引き出し、引き出したキーワードを元に学び合い活動を通して理由を考えさせていく。最後にまとめでは考えたことを確認し、確認テストで理解度を把握する。

(3) 本時の主眼

ヨーロッパ州の自然環境について、身近な地図帳を使って意欲的に調べ、ヨーロッパが高緯度の割に気温が高い理由を、学び合い活動を通して考察しまとめることができる。

(4) 準備

①資料 ②ワークシート ③ホワイトボード

(5) 展開

| 学習活動・内容 | 指導上の留意点 | 評価規準 | 配時 |
|--|---|---|----|
| 1 本時の学習内容を確認する。 | ○ホワイトボードを活用し、本時の流れをつかませる。 | | 2 |
| 2 ヨーロッパの面積・人口の割合、地図を見て、国が隣り合うことから国の結びつきについて興味・関心を高める。 | ○単元の導入として結びつきについて課題意識をもつ。 | | 4 |
| 3 2月の札幌とニースの写真・雨温図を見て、ニースが暖かいことを確認する。 | ○ニースの方が、緯度が高い割に暖かい理由を考えたいようにする。 | | 4 |
| 4 地図帳で札幌とニースの緯度を調べる。 | | | 5 |
| めあて 北にあるニースの方が暖かい理由を考えよう | | | |
| 5 地図帳を使って、ヨーロッパの自然環境を調べる。 | ○地図を提示し、目で分かるようにする。 | ○意欲的に地図帳を使って、自然環境について調べている。 | 10 |
| 6 気候に影響をあたえるものについて考える。 | ○生徒から「風」「海流」などが出てくるようにする。出てこない場合は、地図帳などを活用し引き出す。 | 【興味・関心・意欲】 | 5 |
| 7 ヨーロッパが高緯度のわりに気温が高い理由を考える。 | ○答えを教えるのではなく、ヒントを出したりして、答えを導き出せるように教え合うことをおさえる。 ○学習が進んでいない生徒に対しては声かけを行う。 | ○「北大西洋海流」「偏西風」の語句を使って、気温が高い理由を適切に表現できる。 | 10 |
| <p style="text-align: center;">【学び合い活動】 自由に移動し、分かる人からヒントをもらい、理解し合う。</p> | | | |
| 8 本時のまとめをする。 | ○めあてを確認させる。 | | 5 |
| <p style="text-align: center;">ヨーロッパは高緯度に位置するが、暖流である北大西洋海流と、その上空をふく偏西風の影響で、気候が温暖である。</p> | | | |
| 9 確認問題を行う。 | | | 5 |

8 研究のまとめ

「なぜヨーロッパは高緯度の割に暖かいのか？」というテーマで学び合い活動を行った。学び合い活動では、「友達に答えは教えない」・「手がかりになるようなヒントを提示する」というルールの設定や、「答えに到達できた人は、黒板に貼ってあるネームプレートを裏返す」・「タイマーを使って学び合い活動に制限時間を設ける」など、視覚的・客観的に自分の状況を把握できるような工夫が盛り込まれていた。その反面、学び合い活動中の席の移動や話し相手の選択については自由が認められていて、子ども達も気負うことなく楽しみながら活動に参加できていた。

9 成果と今後の課題

勾金中学校で行われている学び合い活動は、「寝ていた・遊んでいた生徒を授業に参加させる」というところが出発点になっており、子ども達の授業に向かう姿勢を第一に考えた取り組みである。公開授業の日も、子ども達は積極的に議論を交わし、授業に参加していない生徒は一人もいなかった。この取り組みを始めてから、普段の授業でも何もしない生徒が極端に減っているようで、この点は学び合い活動の取り組みの成果といえる。授業の実際では、札幌とニースの写真と雨温図を使って「問いづくり」をしたり、学び合い活動（「思考づくり」）では気候に影響をあたえるものとして海流や風を引き出したりするなど、生徒の思考力・判断力・表現力を高める手だてが工夫されており、大変参考になる授業であった。一方、課題としては、「学び合い活動の前に、自分の考えをまとめる時間をとった方がいい。」という意見があり、今後さらにこの取り組みを進めていく中で改善していく必要があると感じた。いずれにせよ、班での話し合い活動や学び合い活動について、事後研修会では様々な角度から活発な意見交流をすることができ有意義な研修ができた。